

実践例「学校・学級経営の深化・充実」

地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会と連携し、「豊かな心」を育てる学校・学級経営の創造

課題2 地域の伝統・文化を重視した開かれた学校・学級経営の創造

I. 学校名 北斗市立沖川小学校

II. 学校の概要

1 北斗市及び学校の概要

北斗市は、平成28年3月26日に開業した北海道新幹線の当面の終着駅である新函館北斗駅がある街である。また、日本の代表的な童謡「赤とんぼ」に縁があり、静ひつな佇まいが魅力のトランプスト修道院や国指定史跡の松前藩戸切地陣屋跡、眼下に南北海道一の絶景が広がるきじひき高原など、多くの見どころがあり、自然豊かな大地と海からとれる新鮮で、美味しい農水産物が特産品の豊かな資源に恵まれたまちでもある。

沖川小学校は、明治12年濁川小学校として開校、137年の歴史をもつ学校である。学校に対する地域住民の思いや願いは強く、学校行事をはじめ子どもたちが関わる活動には、保護者や地域の協力が大きな力となっている。また、本校は、少人数と恵まれた環境を生かした特色ある教育活動を推進していることから、本市の特認制度指定校として認定され、通学区域外からの就学も認められている。

2 北斗市ふるさと教育の推進（北斗市教育行政執行方針から）

北斗市では、平成27年度から土曜日の過ごし方として、体験学習やふるさと学習等に地域住民の協力を得ながら「土曜授業」を実施している。その中で、子どもたちが北斗市の良さを認識し、愛着を持つことができるように工夫している。また、平成29年度より、今まで以上に地域と学校の関わりを深めるために、学校運営協議会を設置し、地域の方々为学校運営に直接携わり、相互の活性化を図るよう、様々な活動を実施している。

① 市の自然や文化、産業等の教育資源を活用した体験活動の推進

そばの栽培から収穫、そば打ち、そばの試食まで行う「そば学習」と「そば収穫祭」の実施

② 小中連携、地域連携による奉仕活動の実施

③ 様々な「人」とのかかわりを深める「交流学習」

高齢者の生活介護施設「はまなすの里」の年複数回の訪問・交流

北海道教育大学附属特別支援学校（小学部）児童との交流、教員による特別授業の実施

④ 土曜授業の実施

授業を土曜日に実施することの利点を生かした地域の人材等の活用や社会教育との連携

3 沖川小学校のふるさと教育の推進

本校では、ふるさと教育として、そばの栽培から収穫、そば打ち、そばの試食まで行う「そば学習」と「そば収穫祭」を実施している。生活科や総合的な学習の時間、特別活動の時間に位置付け、「そば」を窓口として、地域の農産物などについて調べ、まとめ、発表している。特に、地域とそばとのつながりから、各家庭の生活文化を学んだり、「そば打ち有段者」から指導を受ける体験は、ふるさとへの愛着やものづくりへの理解、職人技への憧れ等をはぐくむ活動として、大きな教育効果を上げている。

また、そばの栽培、製粉及びそば打ち、保護者や地域の人々への提供などを通して、キャリア教育や食育にも繋げた活動を行っている。

Ⅲ 実践例

1 そば学習



• 縦割り3

班に分かれて、そばの種まきを行いました。昔使われていた「種まき機」を使って、学習園に蒔いています。講師の西村氏の指導を受けながら、作業を進めます。

- 大きく実ったそばの刈り取りも、全校児童で行います。保護者の協力も得ながら、実施します。昔の作業が大変だったことを実感しました。また、豊作の喜びも味わいました。
- 刈り取ったそばを脱穀機に掛け、そばの実を外します。足踏み式の脱穀機に掛けると、どんどん実が外れてきます。安全第一で作業を進め、今年は豊作でした。

2 そば打ち講習会、そば収穫祭



- 児童全員が講師（地域在住のそば打ち名人）の指導を受けながら、そば打ちをします。そば打ちからそば切りまでの作業全部を行います。打ったそばは、来校いただいた保護者や地域の皆さんに試食していただきます。調べ学習の成果も発表します。
- 働くことの大変さ、難しさや楽しさを経験し、感謝の気持ちを育みます。また、作ったそばを召し上がっていただくことで、人とのつながりやかかわりの深さを感じます。試食した方々からお礼や感謝の言葉を伝えられることで、自己肯定感や充実感等を味わいます。

3 様々な人との交流体験学習（「はまなすの里」との交流、附属特別支援学校児童との交流）



- 相手の様子や気持ちを考えながら行動する活動は、自分の役割や行動の仕方について考えるなど、より良く生きる力の基盤となる道徳性を育むことをねらいとしています。
- 高齢者や特別支援学校児童と触れ合い、共に学ぶ機会を設定することにより、インクルーシブ教育を進めています。

4 小中連携による活動

- 本校と、卒業生（中学生）とが一緒に活動する場や機会を計画し、「地域清掃」や「長期休業中のサポート学習」を実施しました。



地域清掃は地域子供会との共催事業として、大人も一緒に活動しています。また、卒業生が出身校で活動することは、中学生にとってもやりがいのあるものになっているよう

です。

- 地域との双方向的な連携を進めることは、互いの活性化に繋がると考え、今後も様々な活動の実施に向けて、運営方法などの工夫を進めていきたいと考えています。